

工房信州の家 平屋実例集



みつかる、 自分らしい平屋暮らし

庭とつながり、季節の移ろいを感じながら、信州の暮らしを存分に楽しむ「工房信州の家・平屋スタイル」

長野県産材をふんだんに使い、木のぬくもりに包まれる空間や、ワンフロアの暮らしやすさと広がりを感じるプランニングが、より豊かな平屋暮らしを実現します。

自分らしさが叶う、自由設計だからこそそのデザイン力で、あなただけの平屋スタイルを一緒に作りませんか？

contents

- 01 グレーカラーのバルのような平屋
- 02 Barのある家
- 03 伊那谷の暮らしと景色に調和する家
- 04 余白の家
- 05 キャンプするように人生を遊ぶ
- 06 のびやかに暮らす平屋の住まい

Home with a Story 01

- 家づくりを物語に -



[千曲市／S様邸]

グレーカラーの、バルのような平屋

本来の質感を大切に。経年変化も愛おしめるよう、ひとつずつ丁寧に選んだ素材。
こだわり抜いた空間で、お酒を手に仲間と過ごす時間は格別。



天井は唐松の小幅板を全面に。
赤みが増す経年変化も楽しめる。

テーマカラーはグレー。
背面はグレーの板張り。モール
デッキスで仕上げたキッチン。

土間とフロアの段差は50mm。
シンプルでクールな印象のコン
クリート仕上げ。



フルオープンサッシを取り入れ、リビング・土間サロン・ウッドデッキがほぼフラットに連なる。サッシは戸袋にしまえるのでスッキリした印象に。(上)
土間サロンの一角は、趣味の洋盆栽のための空間。窓を大きく光を取込みつつ、壁もしっかり計画。(下)

シンプルな平屋の外観。グレーの塗り壁に、ブラックの窓枠がアクセントに。窓サイズや位置にもこだわりスタイリッシュな印象。(上)
土間サロンに置いた薪ストーブは、アイアンドッグ No.7。開口部に近く薪動線も抜群。(中)
玄関で家族を出迎えるペンダントライトは真鍮製。鎌倉の作家作品で、工房を訪ねオーダーしたこだわりのもの。キッチン、トイレにも同作家の照明を選んだ。(下)



owner's voice

結婚を機に、まず住宅展示場を見ようかと一軒目に入ったのが工房信州の長野古牧展示場。初めての見学なのに、この時点で心が決まりました。ホンモノ感があり、美しい素材の組み合わせで成り立つ空間に一目ぼれでした。

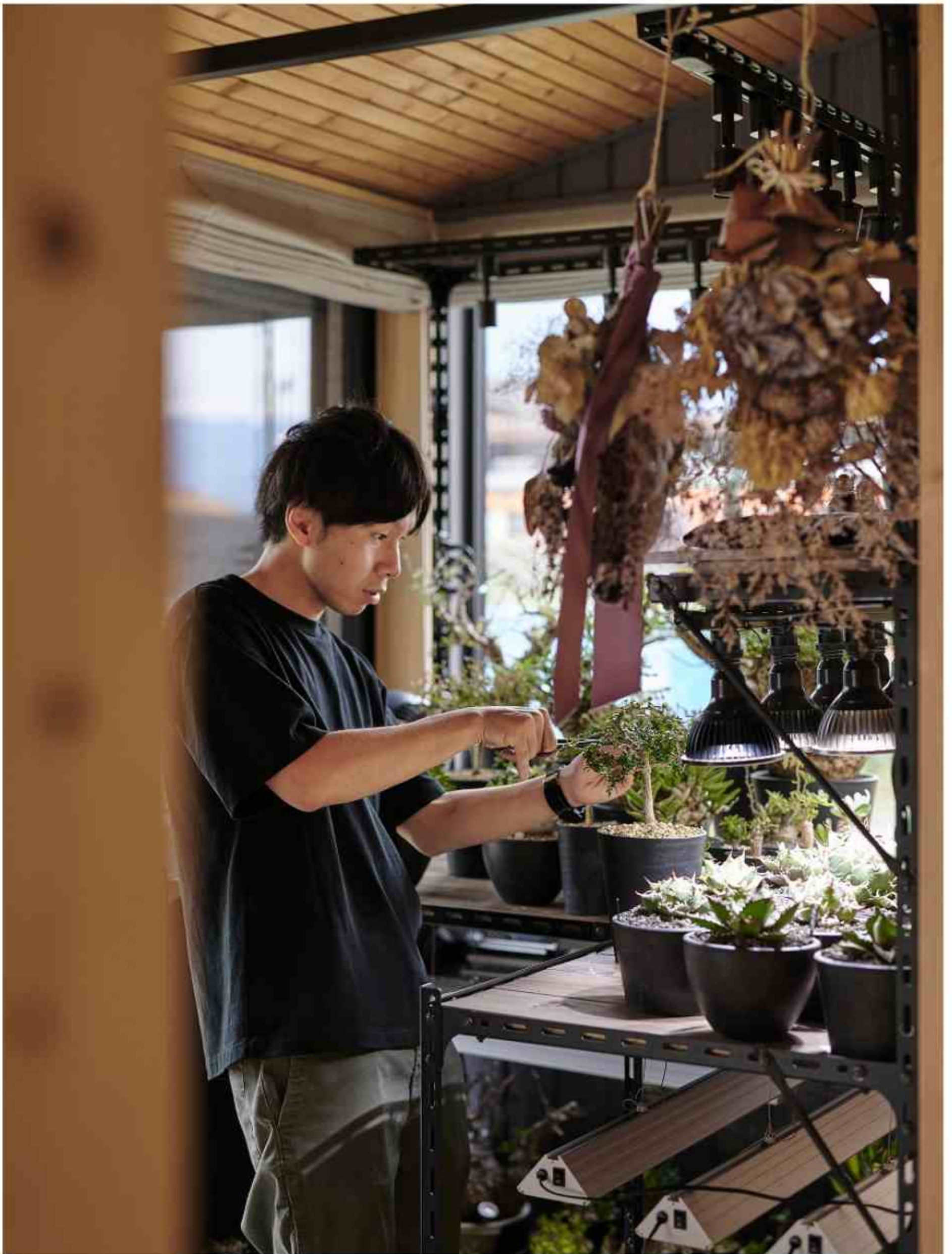
土地探しからの家づくりでしたが、今のゆとりある土地に出会い、2階建ての必要性がなくなったのが平屋にした一番の理由です。ワンフロアで動線に無駄が無く、ロボット掃除機がいらないくらいに掃除が楽なのも嬉しいですね。

その分土間サロンを広めに取り、一角を洋盆栽コーナーにしました。ベストな採光のために窓のサイズや軒の長さを計算したり、照明機材を隠しつつ空間に一体感が出るよう、キッチンの間に仕切り壁を設けたりしました。とことんこだわった土間サロンです。

二人とも料理とお酒が好きなので、キッチンに立ちながらお酒を楽しめるよう計画しました。ワイングラスやボトルのディスプレイも楽しんでいます。

素材本来の質感を大切に。工房信州の家が使う自然素材と私たちが目指す家づくりがマッチしてできた空間に、満足しています。





初めて展示場を見た時から、土間サロンに洋盆栽を置くイメージが持てたという。今では同じ趣味の仲間を招いて、手をかけた洋盆栽を眺めながらお酒を飲むのが至福の時間、と話してくれた。

竣工 2023年3月
敷地面積 493㎡（148坪）
延床面積 102㎡（31坪）
家族構成 夫婦・息子さん

Home with a Story 02

- 家づくりを物語に -



[上田市／M様邸]

Barのある家

お気に入りのクラフトジンが並ぶBarのような住まい。
こだわりの空間を眺めながら飲む至福の時間。
夫婦だけの楽しみは、気付くと仲間を招く楽しみに。

ダイニングキッチンの天井は
無節の杉板張り

「けいそうモダンコート」のヒキ
ズリ仕上げ。間接照明により陰影
が浮かび出す

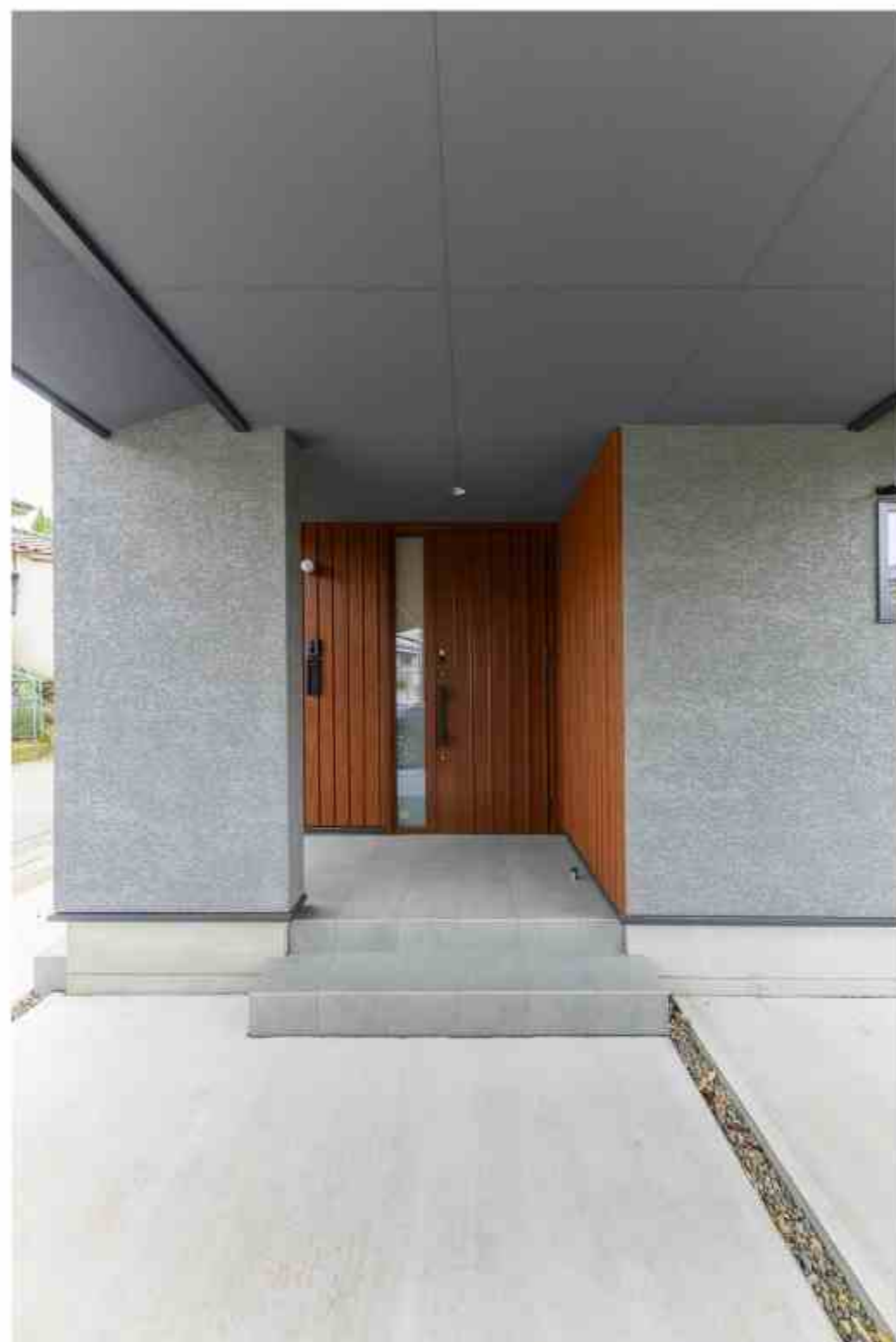
カウンターは奥行きを広めに
とり食事作業もしやすい





ご主人の書斎は縦格子でリビングとほどよく区切った。一部タイル貼りの壁が空間のアクセントに。壁の裏側は可動式の本棚を計画。(上)

キッチンの落ち着いた空間と対照的に、リビングは珪藻土の白を基調に、光もたっぷり入る明るい空間。ロフトをつくり天井高を高めにする事で、平屋でも吹き抜けのような開放感がある。(下)



軒天は、ケイカル版のダークグレー仕上げ。外壁とポーチタイルも色を統一したことで、玄関周りの板張りがアクセントとなっている。(左上)

リビングと繋がるウッドデッキで過ごすことも多い。3時間かけて燻製したり、BBQも楽しむ。朝起きて一番にウッドデッキに出て庭を眺めるのが日課。平屋はより庭に近い暮らしができる。(右上)

シンプルなデザインの玄関も、ペンダントライトで個性的な印象に。(下)





奥様の書斎は個室に。好きなものに囲まれる自分だけの空間。北西の位置だが、窓を大きく取り自然光で明るい。(上)

平屋でも落ち着けるよう、寝室は道路から一番遠いところに配置した。ウッドデッキにもつながるので、毎朝起床後はデッキに出て外の空気を吸い込むのが日課。(中)

造作の洗面コーナー。水はねが気になる部分はタイル貼りとした。上部の窓サッシから光が入り、明るく清潔感のある空間に。(下)



owner's voice

一生に一度の家づくりは、自分たちが満足いくデザインの家にしたい、と思っていました。

夫婦2人なので、コンパクトで将来的にも快適に暮らせるように平屋を考えていました。

私たちはジンやウイスキーなどおいしいお酒をじっくり味わうのが好きで、Barのような雰囲気キッチンを目指し、ひきずり仕上げの塗壁に、お気に入りのボトルを並べる棚、そこに間接照明を計画しました。

2人で料理をしたり、お酒を飲む時間を大切にするのと同じくらい、1人の時間に没頭できる空間づくりも重視しました。夫は縦格子でリビングとゆるくつながる書斎に。私は好きなものに囲まれる自分だけの個室書斎に。夫婦それぞれの個性ある空間ができたと思います。

我が家の象徴のようなキッチン空間は、その眺めをつまみに飲めるほど気に入っています。

ただ、自分たちで楽しむ以上に家に来てくれた人にもこの時間を味わってもらいたい、最近そんな気持ちが湧いてきてるのは大きな変化かな、と思います。





造作のキッチン収納の天板にもお気に入りのツールが並び、作業スペースとしても活用。
家を建てたことで、夫婦だけでお酒を楽しむ以上に、来客にこの空間でくつろいでいて欲しいと
思うようになった、と話してくれた。

竣工 2022年12月
敷地面積 317㎡（96坪）
延床面積 81㎡（24坪）
家族構成 夫婦

Home with a Story 03

- 家づくりを物語に -



[高森町／F 様邸]

伊那谷の暮らしと景色に調和する家

田舎暮らしをするなら、その土地に馴染む家にしたいと思う。
家を外に向かって開き、故郷の人と風土とつながる工夫を。
その佇いは、今もいいし、半世紀先もきっとここに馴染んでいそう。

天井はスギ板張り。ダイナミックに
梁を現したウッディデザイン。

カウンター収納は大工による手作り。
大切なお酒や食器を見せる収納。

床は長野県産のカラマツ。
節が少ないものを選んだ。



マストだった薪ストーブの赤がアクセントに。これに合わせて炉台のレンガを調達し、ギャップもあつらえた。「階段がなく、まっすぐでシンプルな動線が使いやすい」と奥様が話す。(上)
 ダイニング横の和室はゲストルームとしても使う。モダンであり和の折り目正しさもある。つり棚の下窓からは良く風が入り、夏心地よい。(下)

リビングの一角を書斎に。こもる感覚で、仕事や読書に集中できる。壁には「ひとてま工房」で珪藻土塗りに挑戦した記念の、家族の手形。(上)
 子ども部屋には、引き戸収納の他にロフト収納を設け、平屋の小屋空間を有効活用。子どもには秘密基地みたいで楽しい。(中)
 柱の一つに、以前アパートで使っていた身長計を取り付けてもらった。娘さんの成長記録がこの家でも引き継がれた。(下)



owner's voice

この土地は元々、祖父の家や蔵があった場所でした。せっかく田舎に住むのだから、伊那谷の暮らしや景色と調和する家にしたい。私たちが家づくりで一番大切にしたことでした。山里の風景に馴染むよう平屋建てで、切妻屋根の傾斜や厚み、軒の出方までこだわりました。平屋だからこそ実現した、階段がないまっすぐでシンプルな動線も使いやすく、家事や子育てもラクにしてくれています。

LDKから子ども部屋、寝室までつなげた長いウッドデッキは、各部屋をつなぐ外廊下のようにあり、軒つきの縁側のようにもあります。農業が忙しい時期には、両親が田仕事の合間に休憩しに来ますし、実家の猫も散歩していく、オープンなスペースになりました。ご近所さんとかちょっと話すのには、玄関脇の土間サロンが使い勝手が良い。故郷の人とつながる暮らしが出来ているのも、家を外に開く工夫をしたからだと思います。



切妻屋根の平屋が、南信州の山里の景色によく似合う。傾斜、材の厚み、軒の出方など、屋根にはご主人が細部までこだわった。(上)
 陽だまりが心地よいリビングは、フルオープンサッシを介し、ウッドデッキや屋外へと緩やかにつながる。(中)
 リビング入口には家族用の本棚を設けた。お子様の絵本や、仕事関係の本などたっぷり収まる大容量。(下)





日当たり良くコンパクトにまとまった土間サロンは、新聞や本を片手に、ひとり時間を過ごすのにもピッタリ。玄関脇の配置は、回覧板をもってきたご近所さんと、ちょっと話すのにもちょうどいい。

竣工 2018年7月
敷地面積 679㎡（205坪）
延床面積 114㎡（34坪）
家族構成 夫婦・娘さん

Home with a Story 04

- 家づくりを物語に -



[中野市／T様邸]

余白の家

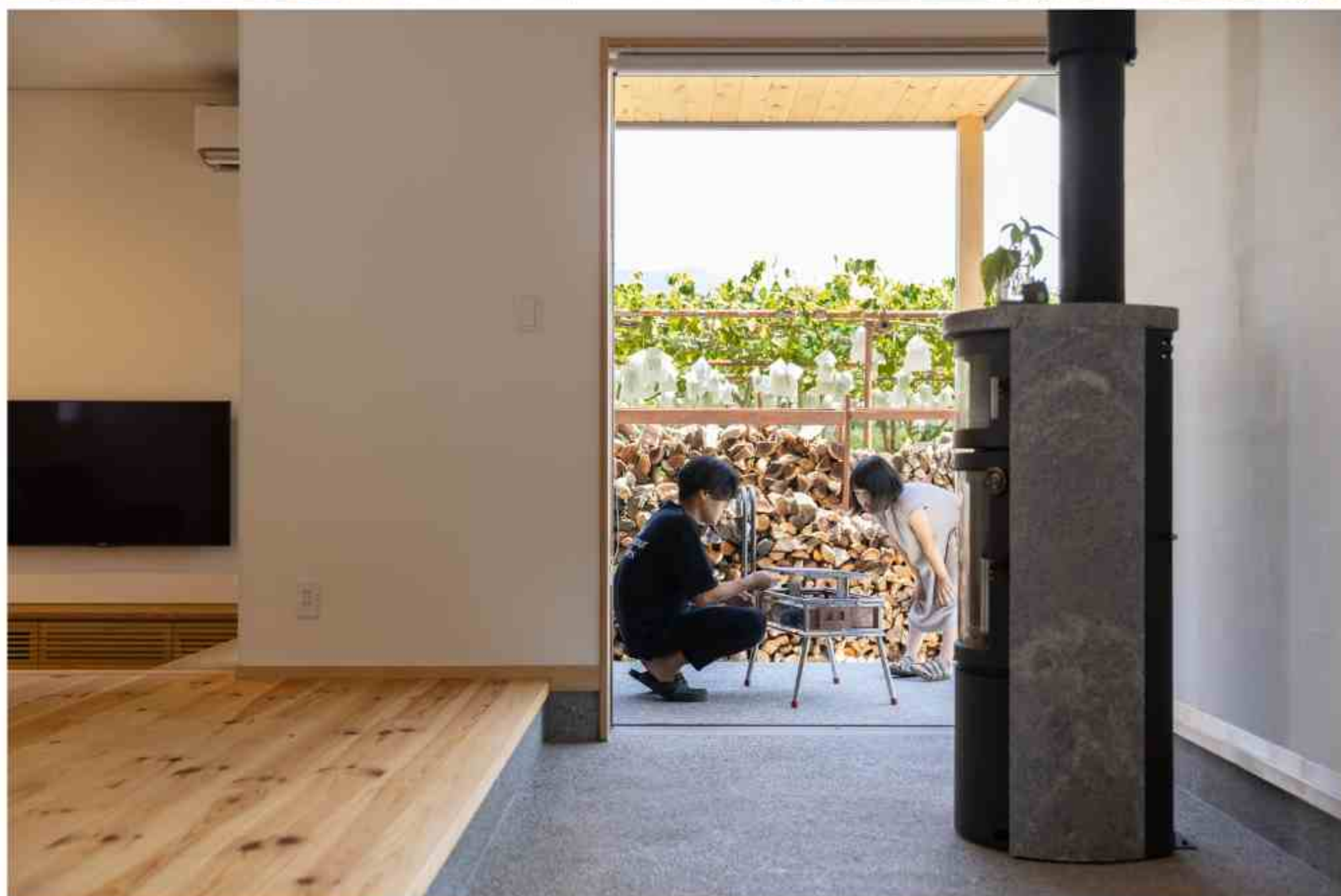
「使い方が決まったフツウの家にしたくない」。
家に余白があるからこそ豊かな暮らしが生まれる。
コンパクトな平屋でありながら
家族が日々、思い思いの場所でくつろぐことができる家。

柱や梁を現し天井も一部板張りに。
木と珪藻土のバランスが良い空間。

予め置く家電を想定し、最小限にまと
めたキッチンまわり。冷蔵庫脇には、
大きな食品庫も備える。

CUBE型キッチンだから、家族が
キッチンを自然と囲み集まる。





メリハリのある窓計画。南東のブドウ畑に向けて開口を大きくした。土間サロンからフラットにつながるテラスは、BBQをしたり庭作業の合間にお茶を飲んだり使い勝手が良い。薪を運び入れる動線も抜群。



キッチン背面の棚はクリ材。お気に入りの小物やキッチンツールが並ぶ。(上)
リモコンは可愛い小さいなニッチ棚に収めた。我が家だけのデザインにも愛着が湧く。(中)
室内干しができるランドリールームは、日当たりの良い南面に。そのままデッキに出て外干しもできる。家事動線の良さも、平屋ならではの。(下)



owner's voice

元々はこの場所にあった実家の離れをリフォームして暮らしており、不便はないものの、どこかアパートに住んでいるような感じがしていました。たまたまふらっと見に行った長野中央展示場の土間サロン。夫婦共に気に入ってしまい、思い切って建替えを決意しました。

具体的なオーダーは2つ、平屋であること。今の25坪より、もっと小さくても良いと思っていました。なるべくシンプルでミニマルな暮らしを目指していました。もう1つ、家族みんなで料理ができるCUBEキッチンを入れること。「2LDK、ダイニングテーブルやソファを置く」というようなよくある間取りは嫌だったので、「フツウの家、使い方が決まった家にしたくない」とだけ伝えてプロにお任せしました。担当スタッフはむしろそれを喜んでくれて様々な面白いプランを提案してくれました。家族が思い思いの場所に腰かけ、くつろぐことが出来る空間が気に入っています。広い土間サロンや二段下がりのリビング空間も「使い方を決めていない」ので、それが余白のように感じ、自由に過ごせるのが楽しいです。唯一のオーダー、CUBEキッチンでは子供たちと色々な話をしながら料理したり、薪ストーブのオーブンでパンを焼いたり…

この家で“おうち時間”を満喫しています。



土間サロンは南面の開口をぐっと抑え地窓のみに。リビングとの段差にもこだわった。土間からリビングに上がるにも負担が少なく、腰かけて過ごすにもちょうど良い高さに設定した。(左上)

「ピッタリリビングにゴロンとなりふと見上げると、真っ白な壁なんだけど、なんかカッコいいと思う」と奥様が話す。平屋ワンフロアでも、段差が活きて空間が単調にならない。(右上)

平屋ならではのロフトスペースは、2人の娘さんの場所。秘密部屋のように楽しい。(下)





ロフトスペースとの行き来には、梯子ではなく階段をつくった。大きな荷物を運ぶのにも安心感がある。
コンパクトな平屋だから、家族がどこに居ても気配を感じ、コミュニケーションが取りやすい。

竣工 2021年10月
敷地面積 316㎡（96坪）
延床面積 84㎡（25坪）
家族構成 夫婦・娘さん2人

Home with a Story 05

- 家づくりを物語に -



[南信州／H様邸]

キャンプするように人生を遊ぶ

東に南アルプス、西に中央アルプスが望める
お気に入りの景色に、テントを張ったような外観の平屋。
夫婦の描く「小屋っぽさ」を、フォルムや素材で表し、
小屋ではない伸び伸びした暮らしができる家。



黒色の天然土を混ぜた
ジョリパッド仕上げ

ウッドデッキとフラットにつながる大
きな窓から、南アルプスを眺める。

薪ストーブはAGNI-CC。背面の板
張りにブルーステイン材を使用。



大きな窓を設けて光をたっぷり取り込むキッチン。使い慣れたギアが並び、キャンプで使うものを家でも使う。ものが少なくて済むので合理的。(上)
リビングの大きな掃き出し窓の先には、ご主人が自ら手掛けた10畳を超える広さのウッドデッキ。南アルプスを眺めながらの休憩タイムが格別と奥様。(下)

玄関正面の壁も赤松のブルーステイン材をつかい、印象的に。玄関脇には大きなシューズクロークを設けた。(上)

アカマツの梁にハンモックを吊るし、愛犬と一緒にくつろぐ。(中)

洗濯、干す、たたむ、収納がスムーズにできるランドリールーム。壁には水に強いサワラを使用。近くにはWICもあり、洗濯動線がワンフロアで完結するのも平屋の強み。(下)



owner's voice

もともと愛知県に住んでおり、年に4、5回は長野県南部のキャンプ場に足を運んでいた私たち。山を下り、伊那谷の中へ身を置いてみると、南アルプスと中央アルプスがそびえていました。この南信州ならではの景色が格別に気に入り、さっそく町の提供する移住体験へ。半年間で移住の気持ちも固まり、いつか家を建てるつもりで、仮住まいからスタートしました。

担当してくれた営業スタッフは、「普通の家だったら要らない」と考えていた私たちの思いに寄り添って、土地探しからサポートしてくれました。私たちが描く「小屋っぽい」家。自然の中に身を置き、自然との一体感を楽しむキャンプのような暮らしを実現するのに、土と近い平屋はマストだったように思います。

家にも景色に溶け込むような要素をたくさん取り入れ、外壁の板張りもその一つです。また、本物の木、なおかつ県産材を積極的に使い、山を良くしているという考えにも共感しました。今は新しい家族（バーニーズ・マウンテンドッグ）も迎え、毎日キャンプしているような感覚で過ごしています。

タープを張ったように屋根がかかる平屋で、広いデッキ部分はテントの前室みたい。第2のリビングとして積極的に活用できそう。(上)
天井はサワラ、柱はヒノキ、梁がアカマツ、床がカラマツ。すべて長野県産材を使用。(中)
畳コーナーはモダンな雰囲気。窓からは中央アルプス南部の山々を望む。(下)





土間サロンには、夫婦共通の趣味のキャンプギアを置いた。フィールドに出るときも帰ってきたときも楽ちん。床がコンクリートなのでギアのメンテナンスにも好都合。ブラックの色味に仕上げた板張りの壁に、DIYで棚を設置した。

竣工 2021年11月
敷地面積 500㎡（151坪）
延床面積 93㎡（28坪）
家族構成 夫婦・犬

Home with a Story 06

- 家づくりを物語に -



[安曇野市／M様邸]

のびやかに暮らす平屋の住まい

土間サロンの大きな窓から見晴らす安曇野の田園風景。

週末には景色を見ながらコーヒーを飲んだり、
家族が集まる夏休みには、みんなでかき氷をしたり。
心も身体も自然とのびやかになる暮らし。

柱を残し二面がオープンになり、外とつながる。絵画のように景色を切り取れるよう、一部にFIX窓を採用。

7.5畳の広々した土間サロン。タイル目地もグレーに統一。

アイアンのオープンシェルフはオーダーメイドした。その日の気分でディスプレイを楽しむ。



キッチンダイニングから二段上がるリビング。ひとつながりでありながら程よい段差と家具があることで、空間に変化が生まれ単調に感じない。(上)
8人掛けの大きなダイニングテーブルは家族が集まる時にも重宝する。円卓と迷ったが、大好きな古牧展示場に寄せて正方形のデザインを選んだ。(下)



リビングの室内窓はご主人のアイデア。壁に囲まれる落ち着く空間でありながら閉塞感を感じさせない工夫。(上)

リビングをゆるく区切る家具は、長野古牧展示場を参考に、伊那にある家具工房にオーダーした。リビングまわりの小物やお孫さんのおもちゃをしまうことができるので、生活空間がスッキリ。(中)

土間サロンには手洗い場を設けた。庭作業から戻ったときにも重宝する。(下)



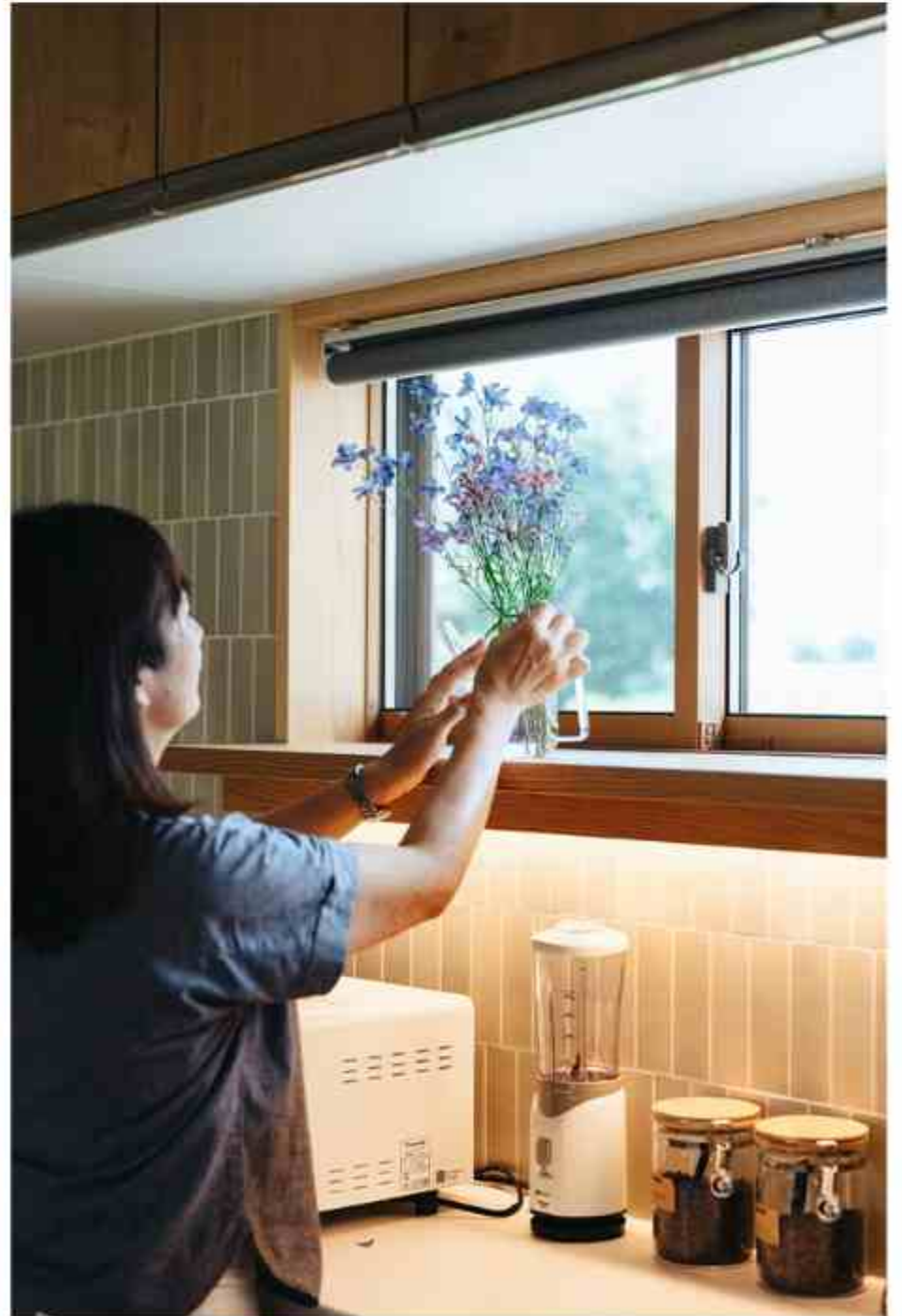
owner's voice

退職を機に、夫婦2人で快適に過ごせる平屋を建てたいと家づくりをスタート。子どもの家族もよく遊びに来るので、家族が集まれる大空間の家が良いなと思っていました。

工房信州の家の、無垢材を使用していることや塗り壁の素材感に「本物」を感じていましたが、旧松本展示場の和のデザインは正直あまりピンと来ておらず…。県内各地の展示場をまわり、長野古牧展示場にたどり着いたんです。土間、ダイニング、リビングがひとつながりの大空間でありながら、段差でゆるく区切る感じが求めているものと合致。土間サロンの二面が大きなガラスで外と繋がる点も気に入りました。当初から平屋希望でしたが、「古牧展示場を平屋で建てたい」という思いに変わりました。結局、古牧展示場は3回は足を運びました。

完成してからは、夏休みに遊びに来た孫と、土間サロンでかき氷をつくりました。子どもはちょっと特別な空間で食べるかき氷を喜んでいたし、大人も室内だとなつい「汚さないで」と気を遣うけど、怒ることなく過ごせました(笑)。

土間とそれにつながる空間があることで、心も身体ものびやかに暮らすことができています。





安曇野の風景と一体になるような住まい。どこにいても自然に近い暮らしができるのも、平屋ならではの。27坪のコンパクトさを感じない広がり空間で、心も身体ものびやかに暮らしている。

竣工 2022年1月
敷地面積 662㎡（200坪）
延床面積 90㎡（27坪）
家族構成 夫婦

あなたの
家づくり物語を
一緒に。



www.kobo-shinshu.com

◇他にもたくさんの実例をHPで公開中！

工房信州の家



◇SNSで動画も公開中！follow me♪



株式会社 **フォレストコーポレーション**

〒396-0027 長野県伊那市ますみヶ丘7352-1

- 掲載の実例に関する情報は、取材・撮影時のものです。
- 印刷のため、実物とは多少異なる場合があります。
- 掲載の写真には、一部標準仕様以外のものが含まれる場合があります。